

 <p>開校明治七年 開校150周年</p>	<h1>大和田小だより</h1> <p>学校教育目標 かしこく やさしく がんばる子</p>	<p>めざす学校像 子供の自己有用感を実感させ、主体的・協働的な学びを実践する学校 ～すべての子を大和田小の光に～</p>	<p>4.5月の生活目標 校内を静かに歩こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で走らない ・廊下も階段も右側通行 ・移動中は会釈であいさつ
		<p>5月号 令和6年4月30日 新座市立大和田小学校 児童数 745名・学級数 27学級</p>	<p>地域と伝統に支えられ、本年度開校150周年を迎えました。</p>

皐月 自ら課題を見つけ、主体的に活動する子

校長 近藤 章宏

新緑が風にそよぐ爽やかな季節になりました。西校舎の児童玄関前の花壇には色とりどりの花が咲き誇り、毎朝子供たちの登校を迎えてくれています。始業式・入学式から早くも1ヶ月が過ぎようとしています。新年度スタートの活気の中、各学年、学級づくりを進めるため係活動の役割分担を決めたり、委員長、副委員長の分担や当番日を決めたりと、実際の活動が始まっています。



目指す児童像

始業式で次のような話をしました。

皆さんがこうなると、もっといいなと思うことがあります。それは「自分から」行動するという事です。多くの授業で「自分から」声をかけて友達と一緒に考えを深めていってください。クラスでの係活動や委員会活動の時には「自分から」仕事を考えて行動できるようになってください。そして困っているお友達がいたら「自分から」「大丈夫、がんばって」と声をかけたり、授業中であれば一緒に考えたり、教え合ったりできるようになるともっともっと素敵になります。

本年度の目指す児童像は、「自ら課題を見つけ、主体的に活動する子」としています。本校の子供たちは皆とてもまじめで、指示されたことはとても熱心に取り組むことができます。昨年度の児童アンケートの結果では、4つの項目のうち「自分にはよいところがある」の質問には目では79.8%の児童があると答えており、2割の児童がなかなか「自分の良さ」を実感できていないようです。

しかしながらこの4月の子供たちの様子を見ると様々に活躍できている場面が見られます。毎朝の通学班では、班長さんや副班長さんを中心として、高学年の児童が低学年の児童に気を配る姿が多く見られます。3月から既に班長が交代して新班長が先頭で歩いていましたが、4月になっ

て歩く速度が少し遅くなっています。1年生を気遣ってゆっくりと歩いているのです。また4月の始め



には6年生が1年生の朝の教室でランドセルの中身を机にしまう支度を手伝ったり、教室の掃除を一緒に行ったりする

など、とても頼りになる6年生です。このように自己有用感を感じられる場を今年度もたくさん設定し、「自分で考えて、自分から行動できる」ことを目指してまいります。



開校150年の沿革（1）

明治5年(1874年)学生発布により日本の近代学校制度が始まりました。その2年後の明治7年に野火止・菅沢・西堀地区の学校として「野火止学校」が野火止字上組字窪(神明神社の付近)に開校し、また同年に大和田・北野地区の学校として「柳瀬学校」が現在も大和田4丁目にある普光明寺に開校しました。この2校が大和田小学校の始まりです。その後、明治19年に2校は合わさり「共進小学校」と校名が変わり、神明神社の隣に開校しました。当時の校舎は4棟に分かれ、3棟は茅ぶき、1棟は瓦ぶきだったとの記録があり、瓦ぶきの校舎は職員室で、茅ぶきの校舎で子供たちが学んでいたものと推察します。運動場は校舎の前後に分かれて設置され、男女で別に使用していたとあり、時代の違いを感じます。神明神社脇にあった学校はその後校舎を増築しながら変遷し、校名



も明治41年に「大和田第一尋常高等小学校」と改称し、大正5年に現在の場所に木造校舎が建てられるまで使用されたとの記録があります。